

[F X O — 1]

特長&使用法

本機は小型ながら、（超）低ひずみを特長とする発振器モジュールです。

◎発振振幅は# 5 - 7 ピン間の R 値により外部設定も可能ですが、振幅を変えますとひずみが悪化することがありますので、本機の出力は変えずに O S C 出力以降でレベル調整されることを推奨します。

◎固定 f o 型は周波数設定用 C f 、 R f を内蔵しておりますので、外付け部品は一切不要です。（# 6 - 7 間のジャンパーのみ必要です）

但し、f o 変更の可能性があれば、基板に外付け C f 、 R f 用のランドを用意して下さい。

◎本機は4相出力が取出せますが、主出力よりひずみ率は数倍悪くなります。

◎電源パスコンが内蔵されていますので外部のパスコンは不要です。

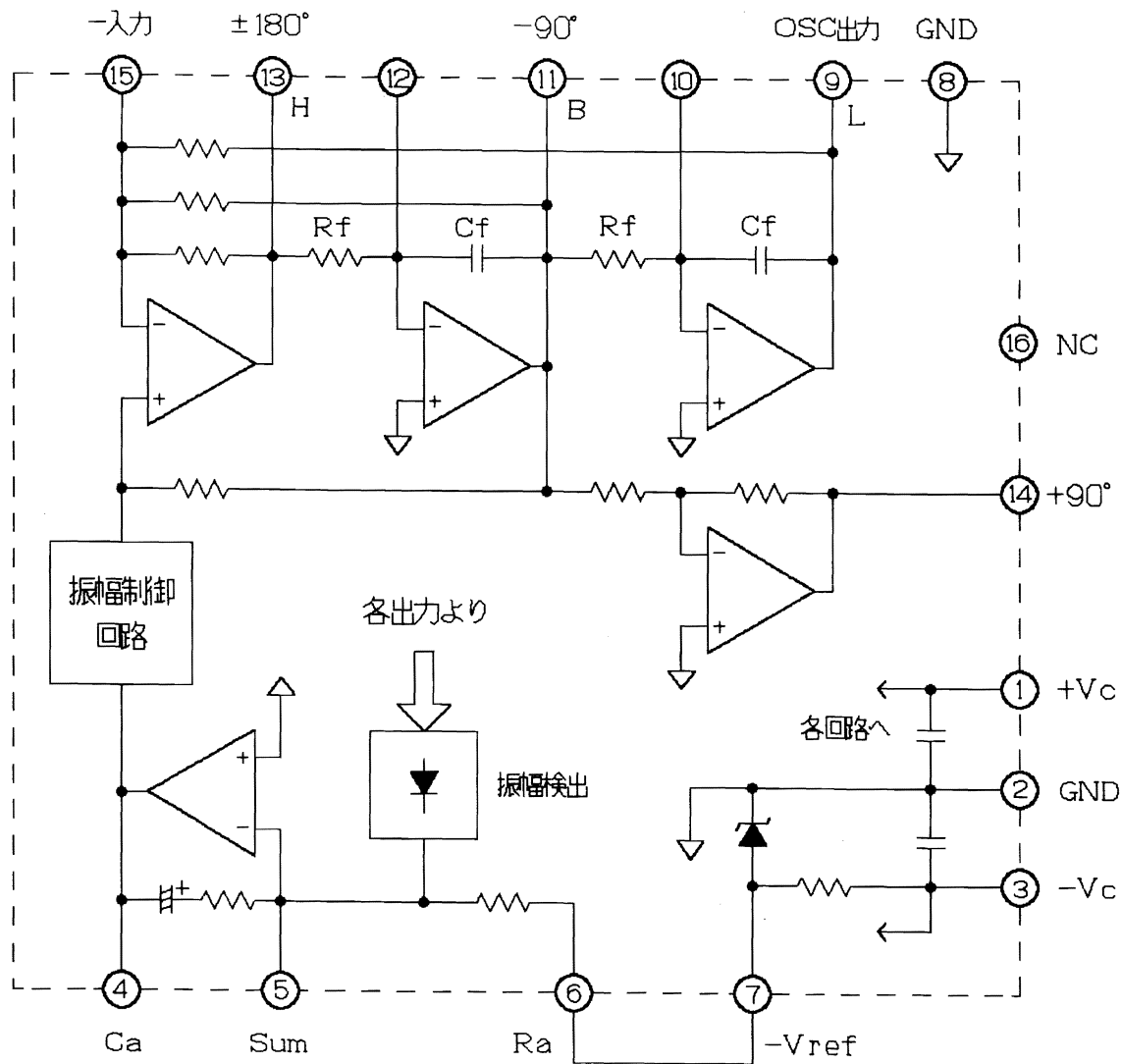
◎# 1 5 ピンは同期発振用入力です。

例えば、シンセサイザー O S C 等正確な f o の出力を $\approx 1 \text{ M}\Omega$ を通し入力することで、同期した正確な f o の信号を得ることが出来ます。

◎# 4 - 5 間に C a を付足すことで、さらにひずみを低下出来ますが、応答性は悪化いたします。詳しくはお問い合わせ下さい。

本機の仕様

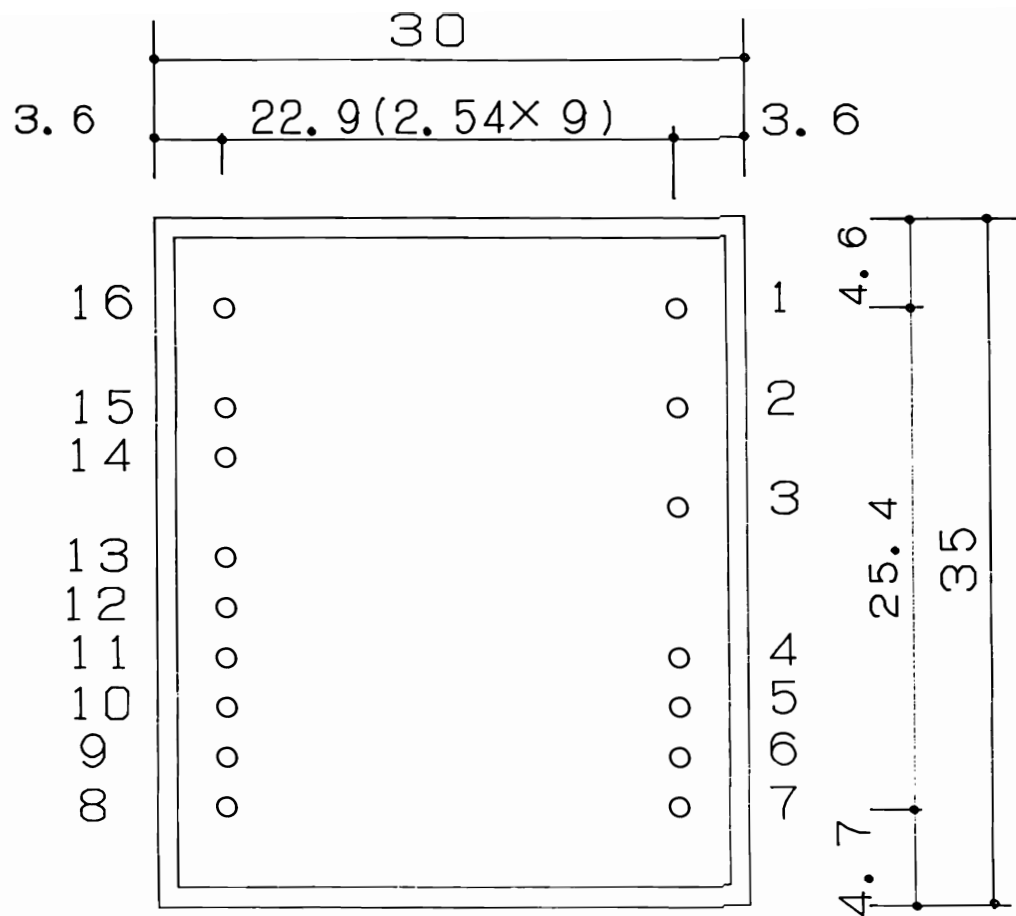
◎周波数範囲	2 0 ~ 5 0 k H z	（ R f 外付け型）
◎出力電圧	約 3 . 2 V r m s	（各出力共）
◎出力抵抗値	0 Ω	（同上）
◎最小負荷抵抗値	1 k Ω	（同上）
◎ひずみ率（主出力）	0 . 0 0 1 % 以下	@ 1 k H z
	0 . 0 0 3 % 以下	@ 1 0 0 ~ 1 0 k H z
◎電源電圧範囲	$\pm 1 2 \sim 1 6 \text{ V}$	
◎消費電流	約 1 3 m A	
◎使用温度範囲	0 ~ 4 5 $^{\circ}\text{C}$	



FXO-1
ブロック図

F X O — 1

ピン番号	機能	
1.	+V _c	}
2.	GND	
3.	-V _c	
4.	C _a	平滑コンデンサ端子
5.	S _u m	
6.	R _a	振幅調整端子
7.	-V _r e _f	基準電圧
8.	GND	
9.		OSC出力 (主出力)
10.		R _f 、C _f 端子2
11.		-90° (遅れ) 出力
12.		R _f 、C _f 端子1
13.		±180° (逆相) 出力
14.		+90° (進み) 出力
15.		S _y n _c (同期) 入力
16.		NC (無接続)



BOTTOM VIEW

FXO-1

ピンレイアウト図
(ピン径=0.6φ)